



【地域と学校の共催行事】

第 11 回藤岡南ふれあいフェスティバル

「咲き誇れ 地域のつながり 六桜」



桜の木陰

豊田市立藤岡南中学校 校長だより

令和四年十一月二日 ふれあいフェスティバル特集号

あいさつ

校長 松山 貴久

秋も深まり、すっかり日足が短くなってまいりました。保護者、地域の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日ごろは、藤岡南中学校の教育活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、十月二十三日(日)に藤岡南ふれあいフェスティバルを行うことができました。本校の取組の特徴は、生徒が地域の皆さんを巻き込んだ活動を展開することにあります。そのため、どの学年も日々の学習を生かしながら、大人から子どもまで楽しんでいただけるようにイベントを計画しました。一年生は、SDGs の学習を生かして展示発表、ECO 縁日、3R クイズを企画しました。また、自治区等のブースでボランティア活動を行いました。鮮やかな桜色の帽子をかぶった中学生の活動をご覧いただけたことと思います。

二年生は四七災害の学習を生かして、体験ブースを企画しました。災害体験をボードゲームにしたり、応急手当を迷路の中で学んだり、

消火器訓練を的当て風にしたりと園児でも楽しめる企画でした。また、暗闇の煙道体験や災害時の高齢者体験は大人でも立派な学びとなったのではないのでしょうか。

三年生は、地域貢献を意識しながら、中学校会場全体の盛り上げ役を担いました。ウッドデッキの縁日では多くの園児や小学生が楽しむ姿がみられ、中庭のイベントでは、有志発表、パフォーマンス、ミニコンサートなど次々と魅力的な演目が披露されました。また、地域のお店とのコラボ商品は大人気で、わずか数分で売り切れになるものもありました。

特別支援学級のお店には、手作りの美しいペーパークラフトが並べられていました。特にローゼル茶は大人気でこちらも売り切れてしまうほどでした。

当日、印象的であったのは生徒が来場者に一生懸命にはたらきかける姿でした。広く地域の皆さんを意識することで、生徒の主体性や社会性が伸長していると感じています。このような機会を与えてくださったフェスティバル実行委員会の皆様、関係の皆様に心より感謝申し上げます。

「思いを形に」

三年一組

色とりどりのケーキが並ぶショーケース。香ばしい香り。藤岡南に住む人なら一度は訪れたことがあるであろう松華堂。昨年度の先輩方がそんな松華堂とコラボしているのを見て、今年は自分も関わりたいと考えていました。

どんなカップケーキを創るか。仲間と話しあった結論は、藤岡南を盛り上げ、そこに住むすべての人に良さを再認識してもらうということでした。そこでこだわったのは、原材料の仕入れ先。使用したほうじ茶とさつまいもは、藤岡南地区でとれたものを使用しました。またアレルギーを配慮し、豊田産の米粉で作ってもらえるよう提案しました。今回僕たちの思いに耳を傾け、形にしてくれた松華堂さんには感謝しかありません。これから地元から愛される存在でいてほしいです。



「今度は僕が」

三年一組

この地区に伝統文化なんてあるのだろうか。僕から見たら、新しい

い中学校。この土地に歴史や伝統があるとは思えませんでした。そんな中「ミナミのミナミを語る会」(総合)で訪れた棒の手会館。そこに勤めるさんから「このままではほら貝の担い手がいなくなってしまう」という困り感を伺いました。戸惑いはありながらも一からほら貝の製作を続け、完成する頃には自分もその文化を受け継ぐ担い手となっている自覚をもっていました。

そして迎えたフエスティバル当日。数回の練習で誰かに何かを伝えられるほど立派な音を鳴らせたとは思っていません。地域の文化を理解しきったとも思っていないません。それでも僕はその発信者として舞台上音を響かせることができたと思っています。



「自分を変える」

三年二組

夏休み前の三年生のフロアには歌声が響いていました。しかし、僕は関心をもちませんでした。

夏休み明けに歌声に参加している友人に誘われ、練習に参加し始

めました。初めは、放課だから友達と話している方が楽しいと思っていました。しかし、歌詞を覚えるためにはどうするか、他のパートにつられないようにするには何を意識するのかなど、練習すればするほど自分への課題が見つかりました。その課題を乗り越えるために練習を重ねました。

本番ではこれまでの練習を思い出しながら歌うことで楽しく演奏を終えることができました。今回の経験から、自分の中で苦手だと壁を作ってしまう物事に対して、それを楽しくするために自分から行動したり、意識を変えたりすることが大切だと学びました。



「見える人と見えない人」

三年二組

今年のふれあいフエスティバルは昨年とは全く違ったものでした。今までに無いほどお客さんがあふれ、各学年の趣向を凝らした出し物が、さらに藤岡南中学校を盛り上げていました。

毎日、朝早く登校して準備をし

た人や、当日に裏方で支えてくれた人もいました。何より、当日に来てくれたお客さんがいてくれたからこそ、この藤岡南地区ふれあいフエスティバルを華やかに終えることができたと思います。

一人一人が意識を変えて行動したり、楽しそうに笑っていたりするだけで、こんなに素敵な一日にすることができると感じました。来年は一人一人が様々な場所で輝くふれあいフエスティバルをこの目で確かめに来るのが楽しみです。



「できる限りのこと」

三年三組

自分自身への挑戦でした。独りよがり、周りに頼ることもしなかったあの時の自分を変えたいと思います、中学校生活最後の行事の実行委員に立候補しました。中庭を使った有志発表、学級ごとのアトラクション、地域のお店とのコラボ商品の販売という多岐にわたる内容を取りまとめ、中学校会場を形にすることは簡単ではありませんでした。でも会場装飾や、口ゴの募集、「さっくん」の耳の制作な

どたくさんの仲間に支えられ、なんとかフエスを形にすることができました。

迎えた当日、中庭の司会を担当しましたが、はじめはお客さんが少なく不安でした。でも増えていくにつれて、会場のボルテージが上がっていくのを感じました。思い描いた通りの出来栄ではなかったかもしれませんが、たくさんのお客さんの笑顔を見ることができて嬉しさを感じました。



「かわり」

三年三組

突然選ばれた総合の班長。最初は、不安しかありませんでした。松元幼稚園に電話をかけるだけでも心臓がとび出そうなくらい緊張していました。でも、そんな心配は不要でした。園児たちの温かい笑顔や園長先生方の支えもあって無事に訪問を終えることができました。幼稚園では、園児たちと桜の舞を踊りました。園児たちの声は私たちよりも大きく、思わず「元気がいいな」と声を出してしまう

ほどこでした。

そんなかわりから、ふれあいフエスティバルで桜の舞を踊ることになりました。全力で踊っていた園児たちが見ているかと思うと自然と力がみなぎるのを感じました。桜の舞を教え、一緒に踊ったことで、伝統が受け継がれていくことを実感することができました。



「いい結果は過程から」

二年一組

僕は今回のふれあいフエスティバルで、「準備すること」の大切さを学びました。二年一組では、二つのフエスを運営することになり、準備を進めました。しかし、進めていくうちに考えることが多くなっていました。予定よりも準備が遅れていてしまいました。しかし、皆がそれぞれの場所で頑張っている姿を見て、自分も頑張らなければと力をもらうことができました。自分一人ではわからないことは友達や先生に助けてもらうことで準備を完璧な状態にすることができました。

ました。

迎えた当日、接客をしていく中で困ったこともありましたが、仲間と協力することで解決し、来てくれた人たちに楽しんでもらえるフエスになりました。仲間と協力し、準備をしつかりすることが成功の鍵となることが改めてわかったふれあいフエスティバルとなりました。



「同じ目標に向かって」

二年一組

短い準備期間でしたが、グループでアイディアを出し合い、よりよいふれあいフエスティバルにするために放課などの空き時間を使い準備を進めました。準備しているときに私が物を運んでいると通りがかったクラスの子が「手伝うよ」と言ってくれました。自分の仕事があるにも関わらず手を貸してくれた思いやりがうれしくなりました。ふれあいフエスティバル当日、最初はなかなかお客さんが来てくれませんが、呼び込みの人が一生懸命声をかけて連れてきてくれたことで賑わいがでてきました。

た。一人ひとりが責任感をもって、手を取り合いながら同じ目標に向かっていくことができたふれあいフエスティバルとなりました。

残りの二年生の学校生活も今回築いた絆をもとに同じ目標に向かって生活していきたいです。



「豹変してがんばったこと」

二学級

一・二学級では、ふれあいフエスティバルに向けて主に二つのことに取り組みました。一つは牛乳パックから紙を作る「紙すき」で、もう一つはローゼルを使った「ティバック作り」です。

ローゼルティーを作るまでには、採ったローゼルを綺麗に洗って乾燥させ、袋に入れる作業が必要です。その中でも特に、私は乾燥したローゼルを袋に詰めることを頑張りました。乾燥ローゼルをきちんと2gずつ計り、一袋一袋にいていねいに入れることを意



識して取り組みました。

当日は、私たちの作った大切な商品やお客さんからのお金を両手で受け渡すことを一生懸命頑張りました。ふれあいフェスティバルは楽しかったです。

「協力」

二年二組

僕はこのふれあいフェスティバルを通して協力することの大切さを学びました。

僕のグループでは消火器体験を企画しました。消火器を自分が使ったとき、とても面白くて、実際に体験しに来た人たちにも同じ思いを味わって欲しいと考えました。そこで、ただ水消火器を使うだけでなく楽しく使い方を知ってもらおうと思い、みんなで意見を出し合いました。

水消火器を使った的あてをやることが決定し、作り始めました。製作は大変で本番までに間に合うか不安でしたがみんな協力して何とか完成しました。当日、たくさんの方が楽しむ姿がありました。それを見て僕は達成感を感じました。



また次、このような機会があったら自分のいいところを出しながら協力してひとつのものを作り上げていきたいと思っています。

「楽しく学ぶ」

二年二組

私は、このふれあいフェスティバルを通してみんなで作り上げる楽しさを学びました。

私は来場者に四七災害時の大雨体験をしてもらう班に入りました。どうしたら当時の大雨を体験してもらうことができるか考えました。「段ボールで家を作る」「霧吹きで水をかける」など、いろいろな案が出ましたがなかなか案がまとまりませんでした。何度も話し合い、実際の大雨に近い体験ができるものを考えることができました。

当日、お客さんが来ないのではないかと不安でした。でも実際には、多くのお客さんが来て小さい子に「二回目をやりたい」と言われた時には嬉しかったです。来年も同じように楽しんでもらえるふれあいフェスティバルにしたいと思います。今後の行事も頑張ります。



「不安から喜びへ」

二年三組

僕は、今回のふれあいフェスティバルが不安でした。昨年はボランティアでしたが、今年は自分たちの手で一からブースを創らないといけなかったり、短時間でお客さんに内容を伝えないといけなかったりしたからです。

迷路づくりでも迷いました。迷路を二つにすることで、効率を上げてお客さんに体験してもらおうと思いましたが、経路が短すぎて面白くなく、急遽一つの迷路に変更しました。

当日は、オープンと同時にお客さんが来てくれました。また、小さい子から大人までよく話を聞いてくれて、緊急時にどうしたらいいのかを伝えられたこともうれしかったです。このフェスティバルで地域の人とふれあうことができてよかったです。

「人のためを想う」

二年三組

私はふれあいフェスティバルを通して、将来について少し考えま



した。

私は受付の係でしたが、想定のお倍もお客さんに来ていただき、急遽、説明の係にまわりました。準備日数もギリギリで、正直不安しかありませんでした。でも当日、小さい子、親御さん、友だち同士の楽しそうな声や笑顔は、これまでの準備の大変さをくつがえすものでした。私たちの説明に元気に反応してくれたり、カードや賞状を嬉しそうに受け取ったりしてくれる姿を見て、人のために頑張る幸せを実感しました。顔も年齢も分からない者同士が、こうしてつながって笑顔で会話できる。こんな経験は中々ないと思いました。

大人になっても人のためを想って行動できる人間でありたいと思います。

「感情」

二年四組

初めてクラスで作るブースは、とても不安でした。しかし、内容を考えていくと「楽しみだ」と思えるようになりました。煙道体験



と高齢者・車いすの体験ブースに決まり、僕は、煙道体験の担当になりました。

なかなかみんなで協力できなかったり、材料の段ボールが足りなくなったりする問題もありました。でも、最後にはみんなで一生懸命にコースを完成させ、「これなら成功しそうだ」と思えました。

当日は「どれくらいの人に来てくれるのか」という不安と期待がありました。前半の担当者との引き継ぎに行くと、

「すぐくたさんお客さんが来たらよ」と喜んでいました。結局、後半も併せて三百六十一人ものお客さんが来てくれました。このクラスの級長になってよかったです。



「感謝の言葉」

二年四組

私はふれあいフェスティバルを通して感謝される嬉しさを改めて知りました。私が看板をもって、一階に行き、集客の声掛けをしていると小さい子から年配の方まで高齢者体験をやりたと言ってくれました。とてもたくさんの方が

来てくれて嬉しさでいっぱいでした。ブースに案内すると多くの方が「ありがとうございます」と言ってくれて、とても温かい気持ちになりました。

私はフェスティバルが始まる前までずっと不安でした。でも感謝の言葉一つで嬉しくなり、もっと頑張ろうと思いました。今後、この思いを忘れずにいろいろな人に感謝の気持ちを伝えていきたいと思っています。そして、来年も地域との交流を大切にしてふれあいフェスティバルに臨んでいきたいです。



「人と関わる大切さ」

一年一組

私は、ふれあいフェスティバルで感じたことが二つあります。一つ目は、物品を買いに来てくださった地域の人たちやボランティアの方々と交流ができたことです。私が販売の受付をしているときに、おじいさんが話しかけてくれました。少しの会話でしたが、普段では交流ができない地域の人たちと会話を通じて交流できたこ

とを嬉しく思いました。

二つ目は、販売に至るまでの準備の大変さです。今回は準備をしていないけれど、

品物を作り、値段を決め、売れるために並べ方を工夫されていると感じられました。また、どんな時も笑顔で接客されており、それにつられてお客さんも笑顔になっていく姿を見て、私も笑顔で接客をして販売をする事ができました。



「あきらめない心」

一年一組

「よし。頑張るぞ」この思いを胸にふれあいフェスティバル当日が始まりました。「ここまでには様々な苦労がありました。夏休みが明け、僕はSDGsに関する発表をする係になりました。最初にパワーポイントで内容を作成していたときは順調でした。しかし、仲間とのリハーサルでは、「原稿と合っていない」などと指摘されました。それから、ペアの



君と何度も練習を繰り返して、当日には今までで一番の発表をすることができました。その努力もあって、お客さんから拍手をもらいました。本番で成功できたのは、今まで何度も練習してきたからだと思います。ふれあいフェスティバルを通して知ったあきらめない心を大切にしたいです。

「感動と笑顔のフェスティバル」

一年二組

当日、ぼくはとても緊張してました。なぜなら、ぼくは西中山区民会館で野菜販売をする担当だったからです。販売では大きな声を出さなければいけません。僕は大きな声を出すのが苦手でした。

区民会館に行き、野菜販売の方に「よろしくお願います」と言うと、その方もとても明るい声で「よろしく」と返してくれました。そして、いざ開店すると四十分ほどで、ほぼ売り切れてしまいました。販売では、様々な方たちが「頑張れ」と言ってくれました。そのおかげで少しずつ



緊張もなくなり、元気で大きな声が出るようになりました。
このフェスティバルで分かったことがあります。それは、明るく大きな声で話すと、自分も相手も元気が出ることです。このことを活かして、これからも過ごしていきたいです。

「勇気を出すことは」

一年二組

私はふれあいフェスティバル当日とても緊張しました。なぜならエコ縁日でお客さんを楽しませられるか、声を出して人を呼び込めるかが心配だったからです。中庭の三年生や体育館の二年生、また同じ一年生も一生懸命に呼び込んでいたのに、私は恥ずかしさが勝ち、あまり呼び込みができませんでした。沢山呼び込みをしている所へは人がどんどん来ていてとても悔しかったです。

勇気を振り絞って呼び込みを試みたら、木工室にもお客さんが来てくれて「やったあ」と思いました。担当したクイズに来てくれたお客さんは、楽しそう



に答えてくれたし、たくさんふれあえたので良かったです。
フェスティバルを終えて、勇気を出すとその先に良い事があることが分かりました。この経験を生かして過ごしていきたいです。

「改めて気づいた大切なこと」

一年三組

私は、ふれあいフェスティバルを通して「あいさつ」はとても大事だということを改めて学びました。

私は、エコ縁日の中の釣りのブースを担当しました。予想以上にお客さんが来て、何を話せばいいのか分からなくなりました。その時、思いついたのは「あいさつ」でした。「あいさつ」をすれば、お客さんも返しやすし、私も自然と笑顔になれました。「あいさつ」をした後は会話

も弾んで、私は楽しい気持ちになりました。きっとお客さんもふれあいフェスティバルを明るい気持ちで過ごせたのではないかと思います。



私は、これからも「あいさつ」を続けて人とのかわりを大切にしていきます。

「聞き手の反応」

一年三組

私は、学習発表の担当になりました。夏休みにクラスみんなが描いたSDGsのポスターの中から良いものを選び、その説明を原稿にまとめました。原稿をまとめることも難しかったですが、それ以上に、いかに分かりやすく伝えるかの方が問題でした。プレゼンソフツのアニメーション機能で見やすい工夫をしました。

実際に発表してみると、お客さんがうなずいて聞いてくれたり、クイズに答えてくれたりすることがとても嬉しかったです。自分が話し手になってみると聞き手の反応はとても大切だと分かりました。相手に気持ちよく伝えることの大切さを今回のふれあいフェスティバルで学びました。



地域部活動

指導者募集

対象の部活動

野球部 ハンドボール部
卓球部 ソフトテニス部
弓道部 バスケットボール部
吹奏楽部 バレーボール部

活動日

週一日三時間(土・日・祝日)

主な条件

- ・対象部活動に関する教育活動にかかる技術的な指導に従事できる者
- ・豊田市部活動ガイドラインを遵守できる者

報酬

一八〇〇円/時間(交通費込)

「少し関心がある」「話だけでも聞いてみようかな」と言う方は、是非！ご入力ください。後ほど学校から説明のお電話を差し上げます。

相談フォーム



このフォームは指導者になることを約束するものではありません。実際に説明を受けて、面談や部活動見学をしてから、指導するかどうかを決めていきます。